

今回の大きな地震を受けて一

約一か月間の熊本での取り組みや動きのご報告

◆ やつしろ子ども劇場の会員さんのお家で

「ミニ子どもの家」開催 4月22日～26日



「家は広いし、駐車場もあるので、お母さんのちょっとした休憩や仮眠、ゆっくり授乳したい方、子ども達の遊び場にいいですよ！」とのことで、八代ママ応援部を立ち上げ、「親子でくつろぐ癒しの宮本家」と題し、4/22～4/26の朝9時から5時まで、11ヶ月～中学生まで1日に4～5組、昼食を作り、遊びました。「ミニ子どもの家」といったところでしょうか。

参加は会員さんのお知り合いがほとんどで、幼稚園や歌仲間の方などでした。天気も雨ばかりでしたが、子ども達も大人も沢山話し、遊んで、地震の不安が軽減されたように思います。居場所作り、ほっとステーションが出来ました。



やつしろの事務所は、地震当初は、2つ位床に落ちたり倒れたりする程度でした。北側がちいさいヒビがいくつも入っています。3度目の地震で、ビル上階の水道配管がズレて、天井から水漏れしました。幸い隅の方だけでしたので、マットやカーペットをはがして乾かし、5月連休明けには乾きました。

◆ 避難所を回って「あそびの会」を実施！！（4月23日～5月9日）

熊本県子ども劇場連絡会

16日の本震の後に、会員で助産師でもあるNさんから事務所にメールが入り、避難所を回っていると小さい子どもたちと親が心配！あそびをもって避難所を回ったらどうか？との声があり、また別の方からは、物は使わずあそびを展開しているアフタフ・バーバンのプログラムが今の避難所の子供たちには必要！との声が届きました。それらの声に押されるように、子ども劇場として今できることを子どもたちに！との思いで、まだ余震も続く中、会員へ呼びかけ「あそびの会」に出かけられるメンバーを登録し、チームを組んで佐藤律子さん（アフタフ・バーバン九州事務所）と共に動き始めました。3か所は紙芝居のぐれっちゃんも一緒でした。また、1か所はかごしま子ども芸術センターの4名の方から「紙とんぼ」づくりを教わり遊びました。

学校にある避難所は、PTAの役員をしている会員さんなどを通して学校の許可を得て、ほとんど教室を使わせてもらい、実施できました。1時間くらいのおそびの時間ですが、子どもたちは最初甘えてくる様子もありましたが、徐々に本来持っている『あそび心』が出てきて一生懸命面白がって身体が動き、気持ちも動く様子が見えました。そんな子どもの姿に親は安心し、また、大人も子どもに負けじとあそび合い、笑顔がいっぱいでとてもいい時間となりました。『あそびの力』を改めて実感させられました！！

ある小学校では、折り紙宝探し（チームの宝を決めそのヒントを折り紙に書いて隠す）という遊びで、子どもたちから出てきた宝の言葉が、“水”“缶詰”“くまモン”“思い出”でした。最終的には“思い出”になりましたが、今を生きている！言葉に大人はジーンとくるものがありました。



地震後の「あそびの会」実施状況

日	曜	時間帯	会場	参加者数	参加者構成	スタッフ数
4・23	土	11:00~12:00	春日小学校 あそぼうの部屋(教室)	子ども5名 高校生3名 大人2名	4才~小学生 ボランティアの高校生 保育園職員	2
25	日	11:00~12:00	春日小学校 あそぼうの部屋	子ども7名 大人3名	4才~中学生 その親・保育園職員	2
25	日	14:00~15:00	五福小学校教室	子ども20名 大人10名	2才~中学生 その親・小学校教員	2
28	木	10:00~11:00	尾ノ上小学校(教室)	子ども25名 大人13名	0才~6年生 親・祖母・絵本読みメンバー	4
29	金	13:30~	広安西小学校(育成クラブ)	子ども10人 大人10人	0才~5年生 中心は 低学年とその親、学童職員	6
2	月	14:00~15:00	五福小学校(体育館)	子ども20名 大人5名	小学生~高校生 体育館にいた大人	3
4	水	10:00~11:00	尾ノ上小学校(教室)	子ども25名 大人15名	0才~中学生 その親・祖母	4
4	水	13:30~	慶徳小学校(玄関内のスペース)	子ども10人 大人2人	小学生~高校生	7
5	木	14:00~15:	玉名市ゆとり一む	親子18組 約50人	0才~小学生 大学生・大人(親も含む)	8
6	金	11:00~	託麻原小学校(教室)	子ども30名	小学生~中学生	6
7	土	13:30~	広安西小学校(育成クラブ)	親子15名	幼児~小学生	4
9	月	14:00~15:00	帯山西小学校(教室)	子ども35名 大人8名	0才~小学生 大学生・大人(親も含む)	4

◆「地震発生から5月9日までの3週間、私にとっても夢のなかに居たような、それでいてとても濃い時間でした。」

益城町立広安西小学校育成クラブ職員

鶴田郁子（帯山子ども劇場会員）

広安西小も体育館、教室と避難された方々でいっぱいでした。

私たち学童育成クラブも施設を開放することを学校とも検討しましたが色々難しく、支援員の有志で1日2時間程 子どもの遊び場として開放することにしました。

NGO 団体セーブ・ザ・チルドレンの皆さんもあそびの広場を開設していましたので、協力して一緒に活動しました。

遊びに来てくれたのは、避難所に寝泊まりしている親子や、昼間だけ学校に遊びに来ている子ども、赤ちゃん連れなので仕方なく避難はしていないが昼間は家にいるのが怖いからという親子さんなど様々。校区も東区のかたもいらっしゃいました。

子どもたちは昼間遊んでいる姿はいつもと変わらず元気でした。親子で毎日来ていた小学2年の女の子が人形劇ごっこで鳥と犬を使って地震の時の逃げ方の劇をしていました。「鳥は飛んで逃げられるけど、犬君はどうするのかなあ。そうだ、お母さん鳥に乗って逃げればいいんだ。」みんなの感心と笑いを誘っていました。地震の話をあえて聞くでもなく避けるでもなく遊んでいたのですが、子どもから自然と出てきた表現です。良い発散の仕方だとも思いました。

明るい学校の先生方やボランティアの方々の方で、避難所の環境は日に日に整っていくようにみえました。子どもたちはニコニコボランティアに任命され、生き生きと楽しそうに働いていました。いつもあ遊びに来ていた女の子に「学童に遊びに来ない？」と誘うと、「ムリ、お弁当配りで忙しいの。」と断られることもありました。遊んでもらうのではなく、自分で楽しみを見つけていくところが頼もしいと感じました。

広安西小学校には連日、子どもの遊びのために様々なボランティア団体が入って活動していました。私も「子どものあそび研究会」「人形劇団ののはな」

「かごしま子ども芸術センター」の皆さんに来ていただきました。皆さんに感謝申し上げます。ここでも問題がありました。参加する子どもが少ない、予定外に他の団体のイベントと時間が被ってしまうなどです。昼間は自宅の片付けに戻っていたり、お風呂に入るために遠くまで出かけていたり、天気



や曜日にも左右され、子どもたちの数の予測がつきませんでした。また、「人形劇団ののはな」さんに来ていただいた時は、学童保育の子どもたちが集まっていたにもかかわらず、屋外での「アフリカの太鼓演奏」プラス「くまモン」登場のために 時間をずらすなどの事態になり、「ののはな」さんに、そして集まった皆さんにもご迷惑をおかけしました。非常時の避難所での活動の作り方の難しさを感じました。

まだ一部は避難所ですが、5月9日からは学校も再開し、学童保育も通常通り始まりました。学童保育で転出した子どもも140名中3名ほどで、予想より多くはありませんでした。



学校には放課後活動や、塾のボランティアの皆さんも入っています。益城町のなかでも広安西小は恵まれているほうだなと感謝しています。

◆ 震災を体験して感じたこと

帯山子ども劇場 今福栄子

被災してみないとやはりわからない被災地の現状…。

数えきれない避難所があってなかなか物資が届かない。今までニュースで見えていましたが、あ〜こういうことなんだ〜と実感していました。炊き出しなど待っていても何も来ないこともわかったので自分で動き始めました。まずは水の確保から。親子ふたりで何ができるかわからないけど、SNSで私たちの動きを知った知人が協力してくれて、少しずつ開き始めた店を回り食材を集め、カセットコンロを持ちより、大きい鍋を持ちより、まな板、包丁を持ちより、カレーライスを作りました
＼(^o^)/

避難所のみなさんに喜んでいただけたようで本当によかったです。

その後もまだまだ余震が頻繁に続く熊本。毎日何がなんだかかわからず、ただ、1日1日できることをやるのみ。しかし、時間が経ち出てきた問題は、避難所閉鎖の不安。私のいたところも自主避難所であり、学校なので、授業が始まれば閉鎖です。家に戻れない人たちはどうすればいいのか不安でいっぱいでした。誰かどうすればいいのかきちんと教えてください。

歩けないお年寄りに「ここを出てください」なんて誰が言えるのでしょうか。

本当に先が見えずに不安でした。心のケアが重要だと思いました。

お年寄りも子どもたちも限界にきているなと感じていました。

ほんの少しのできることを…と、

子どもたちのために絵本を置いてみました。

そして、頑張っている子どもたちにメダルを作って渡しました。



避難所生活も1週間経ちました。避難所では、個人で炊き出しを始めたのですが、私たち親子がそこにいることで、子ども劇場の青年高校生・中学生たちが手伝いに来てくれていました。何かしたいと思っていた近所の子供達やこの学校出身の学生も来てくれました。みんな被災者なのですが、なんだか楽しくなってきました。物資も集めてきてくれたり、多すぎるものは足りないところへ運んだり、個人で連絡をとったほうが早いので、どんどん動いてくれました。そして、子ども劇場の子どもたちで「炊き出しリクエスト」を思いつき、表を作りました。すると「豚汁大人気！」翌日のメニューは豚汁でした。生野菜の支援もあり、食事がだんだん変わってきました。

地震が起こって怖かったし、何をしたいかわかりませんでした。それでも、いろんなことを考え SNS で発信し、みんなが協力してくれて、ほんの少しだけど避難所にいた方たちのお役に立てたのかな、と思います。私が動けたのは、子ども劇場の仲間がいてくれたからです。ほかの方々も巻き込みながら私たちのいた避難所は子ども劇場の交流会のような空間になっていました。私も娘も、子ども劇場で育ってきたことを心から感謝しています。本当にみんなありがとう！



◆「熊本地震」災害のなかで

トムソーヤの会 理事 松本 泰子

4月14日の夜からはじまった地震は、私たちがこれまで経験したことのないすさまじいもので、次々に襲ってくる揺れと、テレビからとび込んでくる光景は、恐怖そのものでしかありませんでした。

私たちのすむ北部東校区は熊本市の中でも、比較的被害が少なかったのではないかと思います。それでも「子どもたちはどこにいるのだろう」というほど街の中に子どもの姿はなく不安と恐怖の数日が過ぎていきました。そんな中、菊南病院の5階ホールで「職員さんの子どもたちと遊んでほしい」というボランティアの依頼が佐藤さんをとうしてありました。いつもは、このホールでお芝居を楽しんでいるトムソーヤの会のメンバーが駆けつけてくれたのも「日頃の地域のつながりのお陰かな」と感謝・感謝・・・

こんなおり北九州から「人形劇団のはな」の納富さんが駆けつけてくださいました。おもちゃ図書館・児童育成クラブ・保育園・などで人形劇を上演していただき、大人も子どもも心が折れそうなこの時期に、楽しさとやさしさに触れ子どもたちも心を開放して楽しい時間をすごすことができたのではないのでしょうか。その中で今回医療型特定短期入所施設「かぼちゃんクラブ」を、3回にわたって訪問していただきました。週に2日通ってくる子どもたち。「どの子にも観せたい」というみんなの思いから3回の公演が実現しました。同行した松野さんは、「ほっこりとした時間でした。そこにいる子どもたちも、看護師さんも、おとなたちも、心から笑い笑顔をとりもどせる時間でした。ほんとうにやさしさあふれるひと時を過ごすことができました。」と感想をのべていました。

トムソーヤの会は、これからも人と人の心をつなぎ、子どもたちが元気に育つことを願い活動を続けていきたいとおもいます。



「トムソーヤの会」は熊本市の北部東小学校区で、子ども劇場OBのメンバーを中心に立ち上がった会です。毎年、地域公演や6年生へ卒業前に舞台公演のプレゼントを続けています。民生委員や子育て支援などメンバーお一人お一人の地域に密着した活動が光っています！

<今回の地震を受けて>

地震の直後から、全国の子ども劇場や創造団体の方々からたくさんのお見舞いのお言葉をいただき、ありがとうございました。心強く思いました！！そして、どの方も「お手伝いできることがあれば言って！」とお声かけをいただき、本当に感謝いたします。

連休明けの11日に県連絡会の理事会を開き、お互いの状況を語り合いました。そして、これからの子ども劇場の役割をどう考えるか？を出し合いました。

その中で、「今回のように誰も体験したことのない大変な“生活”の中で、最低限の生きるための営みだけを考える日々に、他に考える余裕のない日々が息が詰まりそうに思えました。“生活”するだけでなく、“うるおい”や“楽しさ”“ホッとする”などの感情が人間らしく生きていくためには欠かせないと思う。」という意見がありました。

また、「ゆったりと心地よさを感じる時間が、安心感とこれまでの自分を取り戻す早道だと思います。子どもたちやその周りの大人、高齢者も含め地域での『つながり』をとっても意識している今、音楽家や劇団の方のチカラもお借りして、その地域にあった集まりができるように働きかけていけたらと思う。」との意見も！

だいぶ少なくはなってきましたが、まだ今も余震が続いています。これから長い時間をかけて、少しずつ恐怖心や心に受けたダメージに向き合っていくのは、大人はもちろんですが子どもにとっても大変なことかもしれません。関わりながら、寄り添いながら、これからも私たちができることを仲間と共にやり続けていくことだと思っています。今こそ、子ども劇場の出番！なのですから！！



5月11日熊本市内の責任者の会議風景

これからの活動に向けて—

今回、地震を受けて自ら動き出した方などの報告を載せています。本当に子ども劇場のメンバーは、いま何が求められているか？を即座に掴み、対応する行動力が素晴らしいです。この力は地域の中でもっと必要とされていくと思います。そしてこの行動力の中で、「あそび」や「舞台」との出会いをつくっていくことも私たちの役割と考えます。

2016年度の県連絡会の計画の中に、8月21日（日）に子どもたちに、県内一斉に舞台公演を届けよう！と企画していたことがありました。それを20日（土）も加え二日間のフェスティバル（名称は今からです）にします。少しでも多くの子どもたちに舞台を観る機会が創れたなら！と願い、今から計画していきます。

2016年5月末日

特定非営利活動法人
熊本県子ども劇場連絡会